

# 平成 30 年度卒業生満足度調査結果報告書

## 〔 群馬医療福祉大学 〕

本調査は毎年実施している「在学生満足度調査」から、平成 30 年度に実施した卒業見込みの 4 年生（対象 267 人、回答 230 人、回答率 86.1%）にかかる調査結果を抽出して報告するものである。

分析にあたっては主な質問事項において「満足していた」と「どちらかという満足していた」を「満足グループ」、「不満であった」と「どちらかという不満であった」を「不満グループ」とし「どちらともいえない」を加えた 3 分類として比較検討する（項目によっては 5 分類の場合もある）。

問 1 入学決定時の気持であるが「満足」は 74%、「不満」は 6%となっており、概ね本学の入学に満足している。

問 2 教育理念について知ったのは「入学前から」は 47%、「入学後」は 46%となっており、オープンキャンパスなどによる本学の理念の周知や入学後のフレッシュャーズキャンパスなどによってほとんどの学生が理解しているものと思慮する。しかし「今回初めて知った」も 7%存在しており、いっそうの周知が必要である。

問 3 教育目標についても問 2 同様 90%は理解しているが、今回初めて知ったという者は 10%いることについては一考の余地がある。

問 4 次に、「教育理念」や「教育目標」を感じる機会としては、講義を受けているときに 90 件を超えており、学園祭やスポーツ大会への参加でも 50 件を超えている。在学年数が長いからこそ、講義や行事において「教育理念」「教育目標」を感じるのであろう。

問 5 教育に関する取り組みの満足度は「クラス担任制」は 71%、「専門教育」は 70%、「基礎演習」は 63%と調査内容のほとんどが 50%を超えているが、「外国語教育」は 38%と低位であり、今後の検討課題である。

問 6 学生が何に意欲的に取り組んできたかの問いには「専門的な知識を身につける」が 116 件と最も多く、次いで「幅広い教養を身につける」が 71 件となっており、学生が専門的知識の修得に力を入れていることが窺える。しかし「外国語を身につけること」は 10 件と最も少なく、ここでも今後の検討課題である。

問 7 受講してきた授業での不満についての問いには、「不満な授業はない」が 55 件と最

も多くなっている。「教員の一方的な授業」は50件、「授業内容が難しい」と「施設・設備が充実していない」が30件となっている。なお、「教員の指導が十分でない」は27件、「教員の熱意不足」が12件など教員の教育姿勢に対する不満があるのも事実である。

問8 授業に関する項目については「専門分野の授業が充実している」は68%、「実験・実習に十分な時間が確保されている」は63%、「資格取得に役立つ」が61%と6割を超えているが、「高校で学んできたこととの結びつきがわかる授業が多い」については34%と低い。これは、本校の特徴である資格取得にかかる専門科目が多いためでもあり、やむを得ないものと解する。

問9 本学の教員に関しては「授業の進め方や指導法をよく工夫している」と「教育指導に熱意を持っている」など大半の設問項目において6割以上の高い評価を得ている。

問10 本学で身についたことについては、「社会のために行動する力」や「相手の意見を丁寧に聞き内容を正確に理解する力」など多くの設問に対して医療・福祉を学ぶ学生としての基本的なことを身につけてきた。また、「数式や図表を使って表現・分析する力」や「外国語に関する面」は5割以下となっている。なお、今後さらに身につけたい事項としては「コミュニケーション能力」に関することが多く、更なる向上心を持って医療・福祉現場に従事する意欲が感じられる。

問11 本学への総合満足度で「入学してよかった」については「満足」は63%、「満足していない」が11%という結果になっており、入学時の「満足」からやや低下しているが、社会へ巣立つ学年にとってはまだまだやり残したことがあるという自責の念も感じさせられる。

問12 所属していた学科への満足度は「満足」が64%、「どちらともいえない」は29%、「不満」は7%となっている。「どちらともいえない」層をどのように「満足」に転換させられるかが今後の課題である。

問13 本学を後輩や兄弟に進めたいと思うかという設問については「勧めたい」は47%、「どちらともいえない」が31%、「勧めたくない」は22%となっている。特に「勧めたくない」について若干数値が高く感じられることから、今後その原因の分析を必要としている。

## まとめ

総じて卒業年次の学生は入学時に比較し、社会へ旅立つ直前の現実を見据えるともに厳しい見方をしていることがうかがえる。しかし、そうした声を声として単に記録するのではなく、学生が大学の教育理念や教育目標に沿って人間的な教養を育み、社会的

に誇れる人材となるよう大学及び教職員はこの結果を真摯に受け止め、能動的・積極的な姿勢で学生への知識・技術を付与していくよう尽力しなければならない。